

因ニ記ス該校ハ明治十二年ノ創設ニシテ爾來今日迄卒業セシモノ二千有余名ニ達シ其過半ハ小學校裁縫科教員トナレルモノ多シ爲メニ去ル二十七年五月設函者ノ裁縫教授ニ熱心ナル功績上聞ニ達シ藍綬褒賞ヲ賜ハリシト云フ

東京には本郷に渡邊縫裁女學校あり、生徒數千を以て數ふることなれども、校風といふか如きは如何にや、詳細は何れ調査の上報導すべし、神田には古くより女子職業學校あり之も他日參觀の上報導致すべし

新刊紹介

●實教育學教科書

一冊

黒田定治共著
東基吉著

教科書として最も適當した、述で且つ教育學の何たるを知るにも極めて適當な書物として吾人は之を紹介する。全體を緒論と目的論と方法論とに分けて、緒論には教育の學と術と、教育學と他の科學との關係、教育の意義などを説き目的論に於ては古來よりの教育上の諸主義殊に近世に至りて頓に其聲を高めた個人主義と社

會主義とを評論し去つて遂に教育の目的を詳解して、中々嶄新な意見を吐いて居る。方法論に於ては劈頭ヘルバルトの教授目的論を論評して餘隙なからしめたる所、殊に訓練の篇は最も注意して理論と實際とに詳細を盡くし且つ修身教授と訓練との關係を明瞭にし、訓練を以て修身の直學教授なりとなせる所の如き、其賞罰に關する立論の如き最も見るべきである。要するに本書は滔々たる他の著書の上に確に一頭地を抽いたもので、讀者をして確に最近教育學に付きて確固たる概念を與ふべき良書である。(定價七十五錢。發行所、東京京橋區南傳馬町二ノ五目黒書店)

●湘烟日記

全一冊

石川榮司共編
藤生てい編

有名なる明治の女豪男爵夫人故中島俊子の遺稿病中日記と詩抄と漫筆とを載せ、始めに此書の出來たる由來として編者が大磯なる男爵家を訪ひしに筆を起し、續きて女子の略歴は石川氏の筆になれり。序文にもあるが如く、湘烟日記は其中の主なる一篇病中日誌を取りて表題とせるものなり。然れども此書によりて女史の才學女子の、淑徳女史の意志、凡そ女史の面影の大平に寫し出されて餘蘊なし、慙をいば、女史の履歴は略歴とせで、今少し詳ならん事を欲するのみ。蓋し女史の如きは、當今滔々たる所謂才女の、偏へに利を好み名を衒ひ、一世を瞞着せんとして、賞賛と非難と相半するが如きものと異なるを以てなり。然れども、元來此書は女史の遺稿を世に公にするの趣意なるを以て、傳の詳なるは其評さる所なりしならんか。宛に角、吾等は是所に近世の好出版として、殊に女教師女學生諸君に一讀再讀あらんことを勧むるに躊躇

せざるものなり。(定價六十錢。東京本郷森川町一、育成會發行)

●成効 第一卷第六號

東京本郷駒込千駄木町
五〇同雜誌社

見るから吐氣を催しきうな、浮氣々ツブリな文字を羅列した出版物の多い中に、始終健全鞏固な文字を以て獨り異彩を放つて居るのは實に本誌である。吾等には是非とも之を青年の机上に進めろ。本誌載する所、苦學八年の文藝、元真博士の青年修養、幸田露伴氏の文話教則等其他字々皆金玉の價値あるものが多い。(定價一冊十錢、郵税一錢、月一回)

●少年世界文學 第六編 六勇士

例のごとく表紙、口繪、鮮明な挿繪はまづ少年の目を喜ばせるであらう。此編には死とむぐら、糸つむぎ姫木こりのむすめ、六勇士、鶯鳥姫、料理番の六かある。皆ゾリム童話集からとつたもので、それ々の寓意が面白く讀まる。中にも六勇士は少年の好奇心を満足させてあらう。きこりの娘はふと命令に背く。隠す、偽る、強情を張るといふ人間の弱點をよくあらはし、遂に悔いて罪を赦される處までよい教訓を與へて居る。

●少年世界文學 第七編 蛤の草紙

初の蛤の草紙は天笠の縮羅といふ男の親孝行をめで、天女がわざ／＼下つて来て女房になる、しまいには又天に歸るといふので耳遠いやうな天笠の話がうまく日本的に譯されて居る。次の梵天國は日本と梵天國と羅刹國とにわたつた話なので少年は其盛な想像方に訴へておもしろく一息に讀み行く間に自ら因果應報といふ事を感じてあらう。其次の樂島は經ヶ島の由來なので平相國のき

かぬ氣がよくあらはれ國春父子の情はよく寫されて居る。

●少年世界文學 第八編 梅王松王櫻丸

此編の初めはよく芝居で演る官原傳援手習艦でアツサリと少年らしく、しかもよく三人の忠義が寫されて居るから之を讀む少年は喜んで深き同情を此三人に寄せ道真公時平公に對する歴史前興味をも合せて惹起するであらう。次にはいがみの權太の事がある。いはゆる千本櫻の中なので初はいかにも悪者であつた權太が急に善い人間になり打て變つた忠義者になる話、「ア、悪にも強ければ善にも強い」と感じながら讀み下す果して最終の頁に此詞が書かれてあつた。終の狐忠信、之も千本櫻で親狐の皮で、できた鼓に附き添ふ子狐の孝心のかわい、事、蕃類にもまごゝろのある事を自然に感ぜしめ動物に寄する同情を養ふ益も遣かばあると信ずる。

●幼稚園新聞 毎月二回發行

由來關西地方は東京附近に比して、幼稚園の發達隆盛を極むる所父兄、保母、教員等皆斯道に熱心なる人々多し。此新聞も亦大阪に於て新に生れたるものにして既に第二號を出せり。フレール傳、風物の話、幼稚園に關する實驗談、母の注意等こま／＼と極めて平易にて併も有益なる記載多し。近來さかく出版物を以て利を射んとする者多き時に方り、此實着なる新聞を見る、吾等はその將來益健全の到達を遂げんことを祈る。(定價一部二錢、郵税五厘。大阪市東區島町二ノ九三幼稚園新聞社發行)